資料２－１

令和８年度

厚保くりYAMAMORIプロジェクト推進協議会
事業実施計画

1　持続的な生産量の確保支援事業事業費

（1）団体による農作業受委託の実証実験①　　開始時期：４月～

令和8年度事業費
5,466千円

事業目的

地域ブランドの担い手減少が危惧される地域において、地域ブランドの維持を団体が農作業受委託制度を活用して担うことができるかを調査・検証を行う。

これまでの手法

事業目的に協力してもらえる農家と協議会が農作業受委託契約を締結する。
協議会は農作業にかかる労働力を確保して、農作業を行う。

＋

今後の手法

令和７年度に行った厚保くり生産者のヒアリングによれば　　名が栽培を近い将来栗の生産を辞めるという回答がある。こうした農家とのヒアリングと実地調査を行い農作業受委託契約を締結する。

併せて、農作業の切り出しを行い農家が負担と考えている農作業である剪定、草刈、施肥、集荷についてワークシェアリングを行える体制を整える。

【目標】　特定農作業受委託契約締結生産者数　R7実績1名➡R8目標3名
ワークシェアリング実施　R7　草刈・集荷➡R8目標　施肥・剪定を追加

1　持続的な生産量の確保支援事業事業費

（1）団体による農作業受委託の実証実験②　　開始時期：５月～

令和8年度事業費
１（1）に包含

事業目的

従事者派遣団体が派遣する従業員が農作業を実施するうえで、何がボトルネックとなるかを検証する。

これまでの手法

実際に農作業を実施した従業員に対して業務の振り返りや省力化器具の使用感についてヒアリングを行う。
併せて、新規就農の可能性についてもヒアリングする。

＋

今後の手法

わくわくらーくサポート協議会による委託では危険作業（剪定、草刈）に人が集めにくいという実態が生じたため、わくわくらーくサポート協議会以外にも幅を広げたワークシェアリングを検討する。

ラジコン草刈機や電動農機具の納品が遅れため、実証圃場で使用するにとどまった。協議会から貸出が可能という事を厚保くり生産者へ周知する。また、坂が多い厚保地域での運搬作業の業務負担軽減による集荷作業のワークシェアリングを推進する。

【目標】　農作業受委託による農作業の業務委託ができる団体　R7は１団体　➡　R8拡大
スマート農機具の利活用　R7平坦中心　➡　R8急坂にも活用を拡大

1　持続的な生産量の確保支援事業事業費
（2）有識者による鳥獣被害対策の実証実験　　開始時期：６月～

令和8年度事業費
1,980千円

事業目的

有識者の意見を参考に地域における有効な鳥獣被害対策の試験導入を行うことで、地域に適した鳥獣被害対策を明らかにする。

これまでの手法

事業目的に協力してもらえる農家と協議会が協定を締結する。
協議会は有識者の意見を参考とした鳥獣被害対策を実施して有害鳥獣の侵入率を調査する。

＋

今後の手法

防護柵のあるMZ氏と電気柵のあるN氏のほ場において、食痕数から被害額を算出した結果、両圃場で農家所得ベースで30万円の被害を想定、現行の防護柵では被害を抑えることができていないと考える。

また、カメラトラップにより侵入する鳥獣が特定でき、現地の獣道の確認と食痕数によるヒートマップを策定した。
これらの情報を基に令和８年度は重点的かつコストを最小限とした鳥獣被害対策を行ったうえで同様の実験を行いどのように減少していくのかを実証実験する。

【目標】　食痕被害の“被害なし”の割合　MZ氏　３％　➡　２０％
N氏　１４％　➡　５０％

1　持続的な生産量の確保支援事業事業費

（3）栗園における土壌分析試験業務　　開始時期：６月～

令和8年度事業費
3,873千円

事業目的

厚保くりの出荷が多い地域の土壌を複数分析し、収量と土壌の因果関係を明らかにする。

これまでの手法

事業目的を理解し協力してもらえる農家と協議会が協定を締結する。
協議会は土壌分析を行う事業者と業務委託契約を締結して土壌分析を実施する。

＋

今後の手法

厚保くり生産者を対象とした土壌分析を行った結果、半数以上の圃場において土壌改善が必要な状態であった。
令和８年度土壌改善の専門家の指導介入による土壌改善効果と収量の変化について追跡調査を行う。

【目標】　土壌分析を行い土壌改良に取り組んだ農家の数　１０戸

2　生産者所得向上支援事業費
（1）新たな農家所得向上

令和8年度事業費
2,579千円

事業目的

現在の収益構造の見直しを行い、厚保くり生産者の農家所得の向上をはかる

今後の手法

①市場において需要が高くJAによる買取単価も高いものの、高齢化や担い手不足を理由に出荷が減少している「むき栗」。共同利用できる「皮むき機」を購入及び設置することで「むき栗」の出荷の促進。
R7年度は中生・晩生に供給量が増加したが、同時期に需要の高いむき栗の出荷の促進に取り組むことで、販売の促進を図ることについて、R8年度に調整を行う。

②飲食事業者の評価が高く、需要が高い「栗ペースト」の加工原材料の「加工栗」の買取単価の向上と安定化をもって農家所得の向上をはかる。

【目標】
①むき栗の供給量増加について、関係機関や生産者とR8年度に調整を行う。

②ペースト加工栗の供給量増加について、関係機関やとR8年度に調整を行う。

【試食会参加事業者からの聞き取り】

	事業者名	最小必要量（kg）	最大必要量（kg）	下限：希望卸単価（円）	上限：希望卸単価（円）	納品希望時期
1	TM	500	500	3,000	3,000	9月
2	OS	60	120	4,000	5,000	9月
3	PB	10	30	5,500	7,800	9月
4	HY	160	160	3,800	3,800	
5	TS	800	1,000	1,200	1,700	11月
		1,530	1,810	3,500	4,260	

※出荷量÷２がペーストの出来上がり重量となる。